

県内小中学校で本年度のNIE(教育に新聞を)活動が本格スタートした。新学習指導要領が掲げるのは多様な視点や深い思考力を養う「主体的・対話的で深い学び」。実践指定校の福井市至民中では新聞と教科書を併用して、意見を出し合いながら戦争の悲惨さを学習。高浜町内浦中の生徒は地元PRに向けた新聞を作ろうと意見を交わした。(藪内弘昌)



「なぜ70年以上前の出来事が新聞に載るのだろうか」をテーマに至民中で日中戦争や太平洋戦争を考える3年の社会科の授業が行われた。生徒は、新聞に掲載された空襲体験者の言葉などを読み取り、戦争が教科書だけではなく「身近なこと」を感じた。今後、戦争を起さないための方策も考えていく。班に分かれ意見をまとめた。男子生徒は長崎の爆心地で高校生が核廃絶を訴えた記事から「その場所で核兵器の危つさを伝えることに意義がある」と力説。別の班からは、広島と長崎で行われた追悼式典の記事から「被害を受けた、たった二つの都市。そのときの状況を発信すること」で、理

## 福井・至民中

## 経験談から戦争を考える

解を深めてほしいとの思いがある」と主催者の願いをくみ取る声が出た。

敦賀空襲体験者が語った「戦争を知る人は次々と亡くなっている。少しでも記憶を

伝えていきたい」との言葉に、多くの生徒が「戦争のつらさや苦しさを次世代につないで



新聞を使った授業で戦争が起きた要因などを考える生徒たち＝福井市至民中

読んでもらいたい、戦争をなくすためにどうすればいいか、考えを深めたい」と話した。(藪内)

いかなければならない」となどと共感した。体験者らの戦争を伝える活動に「どうすれば日本の平和を守れるか。戦中の状況を知った上で考えてほしい」と考えているから」といった意見もあった。

満州事変や国際連盟脱退、二・二六事件など、日中戦争前の出来事を教科書や資料で読み、戦争に突入した要因を考え、中国との関係が悪化し、さらに他の国と対立した「軍の動きが活発化した」などと意見を出し合い、史実を推察した。

担当した黒崎正人教諭は「歴史は今につながっていることを意識してもらったために新聞を活用した。今後は再び記事を

新聞を作ろうと編集会議で意見を出し合う生徒＝高浜町内浦中



## 高浜・内浦中 新聞作って地元PR

内浦中の3年生は出前授業を受け、新聞の作り方を学んだ。編集会議では特産のブドウや、去年はコロナで中止となった地域活性化イベントなど、取り上げたい話題を発表。意見を出し合いトップ記事を選ぶなど協力して作業を進めた。4人が福井新聞社の徳島泰彦NIEコーディネーターの出前授業を受けた。編集会議で生徒は、これまでの地域学習での学びを生かし、「みんなに知ってほしいので、ブド

ウの若狭ふじを取り上げたい」「イチゴ狩りのお客さんが増えている。加工品もあるから書きたい」と提案した。地域活性化イベントは開催に向け準備が進むがまだ未定。生徒は楽しみにしている様子で「にぎやかなのでトップ記事にしたい」と見出しの文言を考えていた。浅田美羽さんは「地元の人も私たちの新聞に期待している。みんなで頑張ってよい作品を作りたい」と話していた。(藪内)

## 「人権」題材に多角的な考察

坂井中教員

本年度実践指定校になった坂井中では、教員らがNIEの意義や事例を学ぶ研修が行われた。当日の新聞から「人権」に関する記事を探して話し合うワークショップを行い、課題を共有し考えを深め合うNIE活動の利点を体感した。教員約30人は、ヤングケアラーや建設アスペクト(石



人権に関する新聞記事を読み意見交換する教員ら＝坂井中

綿(訴訟といった記事を見つけ、同じ記事を選んだグループに分かれて意見を出した。福井新聞社の徳島泰彦NIEコーディネーターは高校の教科書が新年度から議論などを重視した内容に変わることを説明し、「新聞は社会とつながる重要な資料。子どもたちの興味関心を引き出し、主体的な学びにつなげてほしい」と話した。朝学習でのコラム視写や、新聞記事を題材に生徒に問題を作ってもらった活動なども紹介した。(大西崇弘)

## 探究、議論 一層重要に

「今を生きる」歴史学習といえる。内浦中は生徒が載せたい記事の根拠を明確に示し、論理的に説明していたのが心に残った。提案には説得力があり、地域への熱い思いが伝わる編集会議だった。

高校の教科書が大きく変わろうとする中、NIE活動も、小・高の連携を図り、議論を深め探究心を育む実践を期待したい。(徳島泰彦NIEコーディネーター)

『新聞は歴史書』とも言われ、時代を記録し、後世に伝える重要な資料となる。至民中生の「どうすれば国を守れるのか」「当たり前」の日常に感謝する」といった言葉は、記事を読み過去や現在を知り、平和な未来を見据えた思いだ。これから何をすべきかを考える

2022年度から高校の教科書が「探究」や「議論」を重視した内容に変わる。多くの教科で、新学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」の理念が盛り込まれ、話し合いや考察を求める構成が増えている。小・中学校では、すでに「主体



## 徳さんコラム

2022年度から高校の教科書が「探究」や「議論」を重視した内容に変わる。多くの教科で、新学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」の理念が盛り込まれ、話し合いや考察を求める構成が増えている。小・中学校では、すでに「主体